

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 1F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成24年12月14日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設内の行事だけでなく、町内会や町内の行事(はだか祭り、稲沢中学校職場体験、敬老会など)に積極的に参加している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム代表者は、「自分が老後に入りたくなくなるようなホームを作りたい」、との思いでホームを立ち上げており、利用者ひとり一人にあった「アットホーム」な介護支援の実現を目指している。ホームでは、開設時から町内の方々に声かけを行って町内会に加入しており、過去に組長を引き受けたこともある。さらに、近くの国府宮神社で行われる「はだか祭」の際には、ホームの駐車場を祭りの関係者に提供する協力を行っており、ホーム内で利用者とはだか男たちがふれ合う機会も得られており、ホームで暮らす利用者が、地域の方々と交流出来るように努めている。また、ホームには百歳を迎える元気な方もおられ、誕生日会の時には「百」に繋がる「もも色」のプレザーを着て頂いてお祝いしている。このように、ホームでは「自然に尊敬の念を抱いてしまう」との思いを職員で共有しながら支援を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に職員会議、カンファレンスを行っています。又、管理者、職員間で話し合いの機会を作っています。	理念は開設時に作られたものに、「自分も入所したくなる介護を目指します」との文言を職員で話し合っただけで、皆で共有している。また、理念を具体的に分かりやすくするために、「笑顔で仕事をしよう」などの目標を毎年立てて、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われているはだか祭りの際には、はだか男に来てもらい、楽しくふれあっています。町内会にも参加しています。	開設時から町内会に加入して組長も務め、日頃から近隣の人々と交流している。職場体験として中学生を受け入れたり、中学校の文化祭には参加をしたり、はだか祭の集合場所としても活用してもらうなどして、楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修には職員が積極的に参加しています。毎年、中学生の実習を受け入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催しています。	年6回、ホームの行事予定や状況を細かく報告することで、様々な要望や助言をもらうと共に、地域の方や市役所・地域包括支援センターの職員からは福祉関係の情報を得て、サービス向上につなげている。	会議の内容を職員や家族にも知らせ、運営推進会議を理解してもらうことで、より多くの意見や助言がサービス向上に活かされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同業他社の事業所と連絡協議会を作りお互いの情報の交換と介護技術の向上に取り組んでいます。	ホームでは、生活保護者の受け入れも行っており、担当者とは利用者が落ち着くまでは連絡を密に取り合っただけで、皆で共有している。また、運営推進会議には市町村職員の毎回の出席があり、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解しており、身体拘束をしている利用者はいません。利用者一人一人の外出の傾向をつかんで対応しています。	玄関は開錠されており、出入りが自由にできるが、安全確保のためユニットに続く内扉については施錠してある。職員は、利用者が外出する時等、必要時に解錠するようにしている。	今後に向け、言葉による拘束も含め、身体拘束の具体的な行為を正しく理解する為の勉強会を定期的に行うことで、職員の意識がより高まることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会は行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を説明しながら、施設で出来る事、できない事を話しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、電話や訪問時に意見や、不満、苦情を管理者や計画作成者に伝えてもらい、それらの意見をカンファレンスなどで話し合い、より良い介護運営に反映させる様にしています。	ホームでは、管理者の携帯番号を家族に知らせており、いつでも家族からの意見や要望が聞けるようにしている。さらに、家族会やホームでのアンケートも行って、運営に反映させる取り組みも行っている。また、3か月に1回、ホーム便りと個別のお知らせを送付している。	家族会では、利用者の家族同士が気楽に話し合える場を設けることで、お互いの悩みや不安を軽減させると共にホームへの理解も深めてもらい、要望や意見がより聞きやすくなることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設け、話しやすい雰囲気作りに努め、職員会議、カンファレンス時に参加し意見を反映させています。	ホームでは、定例会議だけでなく、管理者と職員が日頃から意見が出しやすい人間関係が作られている。また、代表者からの声かけも行われており、職員からの意見をサービス向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が抱えている働く為の環境作りを良く把握し援助して、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修を受ける機会を確保していません。研修へ行った際は職員会議で発表する機会をもうけています。全員が介護福祉士を取得できる様取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時にも利用者・家族を交え聞き取りをしていますが、普段から声かけなど積極的に行い利用者と話す機会を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用される前に面談し、利用者の心身の状態や人柄等を伺うと共に、家族からの不安や要望等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、管理者・職員で情報を共有し日々の支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にし、時には利用者が職員の体調や心を気づかって下さる事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一度、利用者の状態を伝える為家族にお知らせ(手紙)を送り報告しています。家族の協力が必要な場合もあり、家族に連絡をし、又、面会にみえた時など積極的に話す機会を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診を家族にお願いできる方はお願いしています。地域行事などにも参加し、地域との関わりを大切にしています。	親族だけでなく、友人がホームに訪ねて来ることもあり、毎週家族と外食に出かけたり、家で泊まる方もある。入居前から通ってた近くの接骨院に、利用者が自分で通院を続け、体調管理とおしゃべりを楽しんでいる。	ホームからのお知らせが毎月欲しい家族に対して、利用者が毎月ハガキを書く支援をする等の工夫をして、様子がより伝えられるようになることに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを大切にし、より良い関係作りができる様支援しています。水分補給を兼ねて毎日お茶の時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要となり退所された方、家族の希望等で退所された方がみえますが、連絡はとっていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者の気持ちの変化など気づける機会を大切にし、何を思っているのか把握できる様努めています。	ホームでは、入居時に利用者・家族から細かく聞き取りを行うとともに、利用者の日々の何気ない会話や行動から、ひとり一人の思いや意向を把握するよう努め、職員は申し送り等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時に情報提供書を作成し情報収集を行い、職員が情報を共有できるようにしています。また入所直前まで利用されていたサービス、ケアマネジャーの方にも確認しています。普段の会話の中で、今までの生活歴や家族の話などよく話して下さっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報提供書を参考に生活リズムを崩さない様心がけています。一人ひとりの排泄状況に合わせ、トイレ誘導の声かけの時間など利用者に合わせて行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が常に気づいた事や見直したい事ができる様話し合いの場を作っています。また定期的にカンファレンスを行っており、カンファレンスでた意見を基に利用者の現状の変化に合わせた介護計画を作成しています。	カンファレンス時、利用者の担当職員が職員全員の気付きや意見を聞いて、3~4か月毎にモニタリングを行い、介護計画作成担当者は6か月毎に、来所時の家族からの情報も含めた現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送りや生活記録での情報を共有し、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応しています。利用者より希望があれば家族に外出をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に参加し地域の行事に参加していません。地域のボランティアの方に定期的に来て頂いています。ボランティアの方と利用者が一緒に楽しめる時間を大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ家族の方に病院受診をお願いしています。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる様努めています。	ホームでは、協力医による往診を月1回行われているが、夜間の緊急対応は行っていないため、緊急時には近くの医療機関に救急搬送となっている。また、以前からのかかりつけ医への受診は家族対応で行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い、必要時洗濯物や不足物品の手配など、家族に代わり協力しています。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を頂き把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合でも、利用者・家族の希望を聞きながら医療機関と連携をとり急変時に対応できる様、安心して生活できる様支援していける体制をとっています。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしています。	ホームでは、看取りを行う方針であり、本人・家族と話し合いを行っている。夜間の急変時には病院への救急搬送となっているが、代表者は自身の母を見送った体験からも平穏な最期を理想としており、最期までホームで看取ってあげたいとの思いを持っている。	家族や職員の不安を取り除き、最期までホームで看取りができるように、24時間体制の医療機関との協力を構築出来るように、再検討されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での訓練は行っていません。勉強会は定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、物品など期限が切れない様管理をしています。年に2回避難訓練を行っています。また町内会に参加し、日頃から地域住民の方との交流を図っています。	年2回、ホームでの避難訓練があり、消防署が参加し指導を受けている。地域での避難訓練には、利用者と共に参加している。また、災害時の備蓄品をホーム外の倉庫に確保してある。	職員全員が通報装置の使用訓練を行うとともに、夜勤の職員だけの避難誘導は限界があるため、近隣の方々の協力を得られるような体制が整えられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、トイレ誘導など一人ひとりに合わせた声かけをしています。	代表者は「自然に尊敬の念を抱いてしまう」との思いを大切に、利用者に対して子供扱いするような幼稚的な言葉遣いをしないように、職員に指導している。また、職員は、利用者一人ひとりに合わせた対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩へ出かける時など本人の希望を聞きコースを選んでいきます。2ヶ月に一度の移動美容室訪問時は本人の希望にそった髪型になるようお願いしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上決められた時間を優先していますが、できる範囲で利用者の要望を伺い、体調に配慮しながら希望にそえる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて、選択肢を出して気に入った洋服を着て頂ける様声かけ、援助をしています。理容・美容については2ヶ月に一度移動美容室が来て本人の希望にそった髪型になるようお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食品会社より作られた物を取り寄せている為一緒に献立、調理することは出来ませんが、準備や配膳、食器拭きなどできる事をお願いしています。また、職員は利用者と一緒に食事を摂っています。2ヶ月に一度、外食に出かけています。	ホームでは、利用者の性格を加味してテーブルを分け、職員と会話をしながら食事が出来るように努めている。業者による食事を、利用者に合わせてミキサー食や刻み食にもしている。また、1か月に1回、手作りおやつを利用者と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保しています。お茶をなかなか摂取できない方は家族と相談し、好みのジュースなど持ってきて頂いています。毎食後、食事摂取量のチェックをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアを行って頂いています。困難な方には介助・見守りをしています。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できる様、声かけ、介助を行っています。	職員は、全員の排泄チェック表をつけ、排泄パターンを掴んでのトイレへの案内や声かけを行い、夜間も含めてトイレでの排泄を大切にしている。職員による取り組みもあり、利用者の中には紙パンツから布パンツになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヤクルトを出しています。細めに水分を促したり、リハビリ体操をして身体を動かしています。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、シフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っています。入浴拒否の方がいるので清拭・足浴・更衣は必ず声かけして行っています。	ホームでは、2日に1回の入浴で、入浴順などの要望を聞きながら行い、入浴拒否の方には足浴・清拭・ドライシャンプー等で対応しながら入浴につなげている。また、おやつ前に入浴を行うことで、おやつが入浴後の楽しみにもなるようにもしている。	ホームでは、脱衣所に、パネルヒーターを設置するなどして、温度調整する等の取り組みを考えている。今後、利用者が気持ちよく入浴できるような取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などをみて日中30分ほど休息がとれる様支援しています。日中の睡眠時間が長くない様、声かけしお手伝いをお願いしています。居室の温度調節、加湿に気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けています。職員は服用し忘れがないかの確認と利用者の体調の変化の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員会議・カンファレンスを通じて利用者の得意分野、できる事を把握し、お手伝いをお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	2ヶ月に一度外食する機会を作っています。誕生日日には本人の希望にそって外出しています。日常的には近くの神社や公園への散歩、日光浴をする様に心がけています。あじさい祭りやいちょう祭りなど地域の行事にも毎年参加しています。	日常的な散歩は、歩く事が出来る利用者が車イスの利用者を押して出かけたり、職員の見守りで一人で出かける利用者もいる。地域のあじさい祭り等に出掛ける時には、タクシーを使うことで行き帰りをスムーズにし、利用者に負担のないように行っている。	業務内容を再検討し、職員が協力し合い工夫することで、利用者の希望にそった散歩を行い、いつでも外出できる安心感を持たせ、ホーム内で誰もが落ち着くことができるようになることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をしている方もみえ、買い物に出かけられます。お祭りへ行く時など、利用者にお金を手に持ってもらい支払って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合いつでも利用者から直接家族へ電話をできる様支援しています。また、利用者に頼まれ職員が代わって電話をする場合もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろんですが、利用者の各居室の整理など利用者と話しながら行っています。また、室温調整も利用者の訴えに応じて対応しています。	リビングには、雛人形など季節の物や、利用者が昔に描いた大きな絵を飾り、楽しさと懐かしさが感じられるように工夫している。また、加湿器を置いて湿度調節するとともに、運動マシーンを置いて、利用者が心身の活力を引き出す一助としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室が個室となっている為思い思いに居室に戻られたり、フロアー、玄関先に出てみえ利用者同士会話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者がそれまで生活していた環境に近いような居室になる様、長年愛用していた物を持ってきてもらうなど、生活環境を変えない工夫をしています。	各居室にはベッドとタンスが備えてあり、自宅からは使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ、その人らしい居室になっている。なお、居室のスペースが限られていることもあり、あまり多くの荷物は持ち込まれず、季節ごとに家族が入れ替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、車イスでも動きやすい様になっています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム「白寿の里」

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 3月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束の勉強会ができてない。	職員全員が言葉による拘束も含め、身体拘束の行為を正しく理解する。	職員会議にて、身体拘束の勉強会を行う。	6ヶ月
2	13	職員が非常食の置き場、通報装置の使い方を理解していない。	職員全員に非常食の置き場、通報装置の使い方を理解してもらおう。	防火管理者より、職員全員への説明をしてもらおう。	3ヶ月
3	8	家族より利用者より、報告(手紙)が欲しいと言われる。	書ける利用者には、今の気持ちを家族のお知らせ(手紙)に書いてもらおう。	利用者より家族へのお知らせに一言書いてもらおう。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月